

## 2020年度 入学にあたっての祝辞

新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。大学を代表して心よりお祝い申し上げます。

教職員一同、皆さんが、本学での4年間を通して、高い志と豊かな国際感覚を備え、社会の発展に貢献できる人財として成長できるよう、全力をあげて支援することを約束いたします。

入学式は、新入生の皆さんを歓迎する式典であるとともに、「この大学で学ぶ」意識を確認していただく機会でもありますので、新型コロナウイルス（COVID-19）拡散防止対策の一環として、入学式式典を中止せざるを得なかったのは誠に残念です。しかし、このような状況であるからこそ、この4月1日を「今日この日から始まる名古屋学院大学での大学生活を実りあるものにするぞ」という宣言の日にしてもらいたいと思います。

4年間というのは長いようで短いものです。実り多き4年間にするために、ここで、今一度、自分が大学に進学した理由を考えてみてください。皆さんの、それぞれの胸の奥には、いろいろやってみたいことがあるかと思います。しかし、共通して言えることは、皆さんは自らの可能性を広げるためにここにやってきたという点です。つまり、自分を「成長」させるためにここにいるわけです。まずは、そのことをしっかり心に刻んでおきましょう。

その上で、皆さんのご入学を祝い、ここで二つの話をしたいと思います。

一つ目は、本学の「建学の精神（けんがくのせいしん）」である「敬神愛人（けいしんあいじん）」について、そして二つ目が「大学での学び」についてです。

一つ目は「建学の精神」です。「建学の精神」という表現は多くの皆さんにとっては馴染みのないものかもしれません。これは、各私立学校が、学校を作る際の根底にある考えを表現したフレーズです。そして、キリスト教主義大学である本学の建学の精神は「敬神愛人」です。これは「神を敬い、人を愛する」と書きます。本学に学ぶ者は、是非、この言葉と絶えず向き合ってもらいたいと考えています。何も「キリスト教を信仰しなさい」というものではありません。「神を敬い、人を愛する」とは、人として、学ぶ者も教える者も謙虚であれ、そして、他者に対して優しくあれ、という意味を持っています。これは、私たちが生きていくうえでの人生の道標ともいうべきものです。

皆さんはデジタルネイティブと言われる世代です。気がついたときから周りにはインターネット、PCやケイタイなどの情報ツールが整った環境でした。現代の日本社会においては、AI、SDGs、Society 5.0などの時代を映し出すキーワードからもわかりますように、我々を取り巻く環境はこれまでヒトが経験したことのないものになりつつあります。

そのような21世紀の時代にあって、多くの賢人が、これからの「学び」は、我々自身、つまり、「人間」へと、その関心が向けられなければならないと述べています。

人間とは何か、人はなぜ生きるのか、人にとって大切なものは何なのか。このような根源的な問いかけに向き合う時代が再びやってきているということに他なりません。

今、「再び」と言いましたのは、この問いはヨーロッパのルネサンスを引き起こすことになった問いであったと言われていています。これがすべての学問・研究に繋がってきたものなのです。つまり、21

世紀にあって、我々は知の基盤となった「ヒトとはなにか」の問いかけに立ち戻る・回帰することになるわけです。

私は、建学の精神である「敬神愛人」はそれに向き合う姿勢を表しているものだと考えています。この「敬神愛人」の意味するところを追求してゆくことこそがここに集う、名古屋学院大学に集う我々の使命・ミッションでもあるわけです。

次に、二つ目の「大学での学び」についてです。大学は「学ぶ」場所であり、高校までの「勉強」とは異なります。それゆえ、「学び」について考えることが大切です。

大学は反作用によって学ぶところです。自ら足を踏み出すことで受けとる反作用の情報から様々なことを学びとっていくのです。失敗を恐れて後部座席（バックシート）に座っているのは、車は動きません。自らが運転席（ドライバーズシート）に座ることから始まります。

若者の特権は「夢」を語ることです。ぜひ、自分の夢を持ち、その実現にむけてチャレンジして下さい。自分を高みに押し上げるその「夢」を目指して頑張ってみてください。

自分の可能性に自らリミッター（制限装置）を設けるのは止めましょう。先入観・未経験をあきらめる理由にすることはありません。初めて踏み出すときには、自信がないのは当然です。しかし、そうであるからこそ、夢に取り組むことができるわけです。

もちろん、夢は簡単に手に入るものではありません。時に失敗する場合もあります。しかし、失敗は恥ずかしいことでも自分を卑下することでもありません。そこにこそ、「学び」のチャンスがあるのです。やっておけばよかったという後悔よりも、やってみて色々なことがわかった、この学びを次に繋げていこう、という考え方を選びましょう。

本学の学生の魅力は何と言ってもその可能性にあります。伸びしろが本学の学生の特徴です。本学の学生の素直さや吸収力の高さを褒めていただくことがよくあります。最新版の『価値ある大学 2020 年版就職力ランキング』（日経キャリアマガジン特別編集）で、本学が「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査」総合ランキングにおいて、東海・北陸地域の大学の中、第5位にあることが記載されています。私学では堂々の第1位です。このことは、本学の学生の可能性の高さを如実に物語っています。

本学はさまざまなチャンスを用意しています。授業は言うまでもなく、教職員、先輩、友人との交流、クラブやサークル、留学、ボランティアや地域・社会貢献活動などを通して、自らを「進化」させて欲しいと願っています。

そして、本学には、可能性豊かな若者たちを応援・支援する教職員（＝教育集団）が集っています。皆さんが成長するのをお手伝いすることを喜びとする教職員です。

ぜひ、2020年に入学した名古屋学院大学が自分の成長の原点であったと振り返ることのできる時空間にしてください。

本学で過ごされる大学時代が、実り豊かに人生を生きるための、大きな礎となることを願い、入学の祝辞とさせていただきます。

2020年4月1日 名古屋学院大学学長  
赤楚 治之